

【提出様式】 令和４年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 西池袋中 学校

評価対象者数（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
447	177	31	8

領域	豊島区教育 ビジョン 2019 基本方針等	評価 番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に 向けた 改善策			
				児童・生徒				保護者					地域					教職員					自己評価 概要	学校関係者 評価の意見	評 語
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1				
I	就学前から小学 校・中学校への 円滑な接続	I－1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学 校、中学校)と連携を図ろうとしている。					55	75	15	2	30	8	0	0	0	0	22	9	0	0	今年度は2年ぶりに対面での分科会の実施 することができ、小中9年間を通して 継続した支援のあり方を検討するこ とができた。また、小学生体験授業も 実施することができた。	関係機関と連携を図り、対応している様子 がうかがえた。小学生体験等も実施でき、小 学生から「中学校へ行ってきた」という声 が久しぶりに聞こえ、嬉しく思った。困り感 のある子の情報も上がっており、連携を密 にしていると感じている。	A	特別支援教育と共に不登校等を含め、様 々な支援を必要とする児童・生徒の増加 と、多様化する支援内容に対し、西池袋 中ブロック校として9年間を見通した支 援体制や支援のあり方を充実させ、課題 解決を図っていく。
II	確かな 学力の育成	II－1	学校は、子どもの学力の定着・向上のため に、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を 対象としたア ンケート集計 表をご参照く ださい。		51	86	13	2	25	6	2	0	0	0	22	8	1	0	常時オンラインで授業配信を行 い、学習権の保障に力を入れた。 また、学習センターに教室に入る ことができない生徒へ向けた学 習環境の整備にも務めてきた。豊 島区の学力向上の研究指定校とし てCBTを利用した授業改善にも取 り組んだ。	参観の際にICT機器やタブレットを使用 して授業を行っている様子に驚いた。 活用方法などの研修が行われている様子 が見られた。 また、教室に入ることのできない生徒 へ向け、学習センター等を解放し、い つでも受け入れることができる体制を 整えたことはとても良いことだと感じ ている。	A	オンラインでの授業配信を継続し、学びの 保障に務め、また、教室に入れない生徒 へ向けた学習環境の整備に努め、さら に関係機関とも連携を図っていく。また CBTを利用した授業改善を推進し、生 徒にとって分かりやすい授業を行える ように授業改善に努めていく。		
		II－2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用 により、分かりやすい授業の実施や子ども の学びの意欲の向上に取り組んでいる。			52	87	18	1	19	4	4	0	0	0	22	8	0	0						
III	豊かな 心の育成	III－1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動 をとおして、互いの良さを尊重し合う温 かい学校づくりを推進している。			58	86	7	2	24	8	0	0	0	0	26	5	0	0	道徳授業地区公開講座では2年ぶ りに対面での協議会を行い、保護 者、地域、教員が意見交換を行う ことができた。また、土曜授業の 際に道徳の授業を実施し、本校の 道徳教育の周知へ繋がったと考え ている。	道徳授業地区公開講座はとても貴重 な会であると感じる。答えのない問 いに、今の生徒達がどのように考え ているのかを聞くことはとても興味 深い。 そのため次年度、土曜日に開催され る予定と聞き、さらに参加しやすくな っていると感じた。	A	次年度は道徳授業地区公開講座を土曜 日に実施し、より多くの地域や保護 者の方々と意見交換することで生徒 の豊かな心の醸成を目指し、暖かい 雰囲気づくりに努めていく。道徳の 授業を要として、各教科においても 命の教育にも力を入れ、学校HPや学 校だより等で取組みの様子を発信し ていく。		
		III－2	学校は、生命を大切にすることや思いやり 、優しい心を育てている。			55	86	5	5	26	7	1	0	0	0	21	8	0	0						
IV	健やかな 体の育成	IV－1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に 、積極的に取り組んでいる。			63	83	9	2	20	7	1	0	0	0	21	8	1	0	体力向上では肯定的な意見が多 く見られたが、食事に関しては生 徒のみ否定的な意見が比較的多 い点が課題である。	学校保健委員会の会議に参加した さいに充実した取組を拝見した。 地域としても生徒の健康維持に向 け、食育等に関する内容の周知に も協力していきたい。	B	様々な活動が制限される中で、健康な生 活を送れるようにするために、自らの健 康や体力の向上について考え、次年度 も実践する場面を意図的につくって いく。 食育を家庭と連携するために給食だ より等で食育に関する情報を学校から 発信していく。		
		IV－2	学校は、充実した食育指導を通して、健康 教育に取り組んでいる。			58	77	13	2	27	3	5	0	0	0	19	10	1	0						
V	一人一人を大切 にする 教育の推進	V－1	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発 見、早期対応）に学校全体で組織的に対 応している。			44	70	7	8	48	8	0	0	0	0	26	5	0	0	いじめ防止に対する学校全 体の取組に関しては概ね良 かった反面、特別支援教室等 に関しても、分からない「分 からない」の回答が昨年度 同様に多いため、周知の方 法を検討していく。	いじめ防止に関する取組を学 校全体で力を入れている様子 は年間を通して見られ、素 晴らしいと感じた。 また、特別支援学級との交 流及び共同学習についても 素晴らしいと感じている。 次年度は周知に力を入れて ほしい。	A	いじめアンケートだけでなく生徒一人 一人に寄り添いながら学校 としていじめの未然防止に 努めていく。また組織的な 対応に力を入れ、その取組 を保護者会、学校HPや学 校だより等で周知していく。 また、インクルーシブ教育 をさらに推進し、HPや学 校だよりだけでなく、土曜 授業時にも交流及び共同学 習に取り組む、その様子を 保護者や地域の方に参観 してもらうことを通じて 学校の取組を発信してい く。		
		V－2	学校は、子ども達の気持ちを理解するた めに、一人一人に寄り添いながら、指導 を行っている。			54	80	14	5	24	7	1	0	0	0	22	7	2	0						
		V－3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関 して、一人一人に適切な指導を行っている。			42	48	6	2	79	6	2	0	0	0	20	9	2	0						
VI	教師力の向上と 魅力ある 学校づくり	VI－1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着い て学校生活を送っている。			73	77	7	2	18	4	4	0	0	0	16	11	3	1	生徒との面接等でも本校の 特徴として「落ち着いた学 校」「あいさつの活発な 学校」という声がよく聞 かれる。土曜授業時の参 観者アンケートでも同 様の声が多く寄せられて いる。その際の意見に タイムリーに返答するこ とができていない点で 「分からない」に繋がっ てしまったと考える。	どの生徒のケースでも校長、副校長 をはじめ全教職員が真剣に向き合 っていると感じている。時間のなか で、要望等に対し、検討し答えてい くのは難しい取組だと思うが頑張 って欲しい。	A	アンケート等で寄せられる要望や意見 に対して学校の取組を学校だよりや 学校HP等で返答していく。また、 次年度から改訂される新しい学校の きまりについて生徒や保護者へ周知 し、本校の特徴を継続できるように 努めていく。		
		VI－2	学校は、保護者や地域の方の意見や要 望を受け止め、学校改善に生かしてい る。			50	70	6	3	48	6	2	0	0	0	20	11	0	0						
VII	家庭・地域との 連携	VII－1	学校は、学校や子ども達の様子を、学 校だよりやホームページ、学校公開 等によって、分かりやすく伝えている。			81	77	8	3	8	7	1	0	0	0	22	9	0	0	HPは毎日更新だけでなく行事 の際にはタイムリーに更新して、生 徒の様子を発信してきた。必要な 情報をすぐに探しやすいように今 後も情報の整理に努めていく。	地域とのつながりを強化できる千 鶴を次年度は行っていきたい。ま た、学校だよりやHPなどは小 学生の保護者もよく見ており学 校選択の資料になっている。今 後も力を入れて行ってほしい。	A	日常のHPの管理担当を設けるだけ でなく、学年の行事の際には学年ご とに担当を設けることで情報発信 の価値機能高める。 生徒の活躍の場を地域へ求めたり、 地域の教育力を学校に取り入れるこ とを次年度はさらに積極的に推進 する。		
		VII－2	学校は、家庭や地域と協力しながら子 どもを教育している。			56	84	11	1	25	7	1	0	0	0	19	12	0	0						
VIII	特色ある 教育活動	VIII－1	学校は、あいさつ活動への取り組みに 関する教育を推進している。		93	63	5	1	15	7	1	0	0	0	20	10	0	1	「あいさつ」のこたえする西池 袋中のスローガンの通り、あいさ つに対する生徒の意識は高い。 より自発性を育てていきたい。	あいさつに対する取組はコロナ以 前と変わらず行っており、素晴ら しいと感じている。	A	あいさつの意義や素晴らしさを考 える機会を設け、さらに気持ちの 入ったあいさつが、いつでも、ど こでも、誰に対してもできるよう 教職員が率先垂範していく。			
IX	働き方改革	IX－1	学校は、校務支援システムの活用や「チ ーム学校」を意識した業務分担等によ り、組織的に業務の効率化・最適化を 目指して取り組んでいる。												12	9	6	4	労働時間の短縮、仕事の効率化は、 まだまだ意識改革や工夫すべき点 がある。昨年同様教職員の負担感 を減らせるように学校全体で同一 方向を向き「働き方改革」を推進 する必要がある。	教員の働き方が変わらないと、良 い教員が育たない、人材が確保で きない時代だと感じている。業務 内容の精選に励み、教職員の方々 には頑張ってもらいたい。	B	「働き方改革」を担当する組織を中 心に、校務の精選、実施方法の工 夫、会議時間の短縮に力を入れる。 また、年間を通して教職員の全体 目標、個人目標を設定し、進行状 況の把握、評価、改善を繰り返して いく。			

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある